

Digi 社 コンソールサーバーCM シリーズ (Digi CM48) と、 PRIMERGY TX200 S6、 SPARC Enterprise M3000 の 接続検証結果報告書

株式会社 昌新
技術部

1. 作業実施概要

DIGI社コンソールサーバー Digi CM48 と、PRIMERGY TX200 S6、SPARC Enterprise M3000との接続・動作確認を実施致しました。

2. 被検証装置

品名	型名	記 事
富士通 UNIX サーバ	SPARC Enterprise M3000	Solaris(TM) 10 SunOS Release 5.10
富士通 PC サーバー	PRIMERGY TX200 S6	RedHat Enterprise Linux 5
DIGI 社コンソールサーバー	Digi CM48 70001950	RoHS 対応
制御監視 PC	ノート PC 等	ネットワーク経由でアクセスできる 端末ソフトが必要



SPARC Enterprise M3000



PRIMERGY TX200 S6



Digi CM48



制御監視 PC

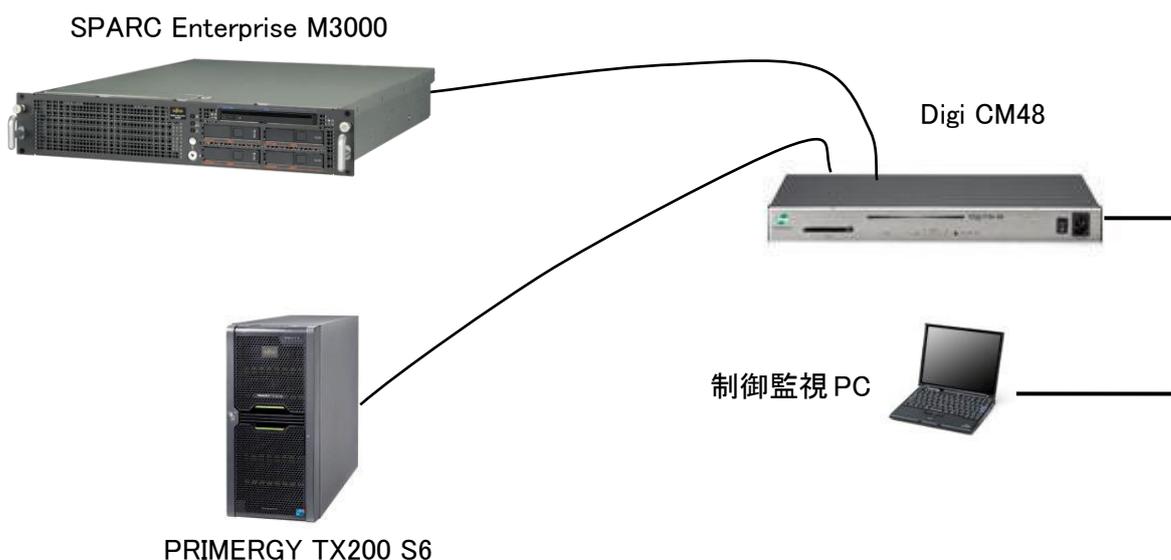
3. 作業期間

2010年 12月 13日

4. 作業場所

富士通検証センター(東京・浜松町)30F Server Room 30-1

5. 実施システム構成(概要)



- (1) SPARC Enterprise M3000 (Solaris(TM) 10 SunOS Release 5.10)
- (2) PRIMERGY TX200 S6 (Red Hat Enterprise Linux Server release 5.5)
- (3) Digi CM48

6. 検証項目

- (1) SPARC Enterprise M3000 を起動し、

DigiCM48 の任意のシリアルポートから、SPARC Enterprise M3000 の背面パネルにありますシリアルポート経由で、保守作業のための操作や、システム監視・操作ができる 管理コンソール接続 が動作する事を確認する。

- (2) PRIMERGY TX200 S6 を起動し、

DigiCM48 の任意のシリアルポートから、PRIMERGY TX200 S6 へシリアルコンソール接続を行い、保守作業のための操作や、システム監視・操作ができる事を確認する。

7. 接続手順

7-1. SPARC Enterprise M3000 との接続

- a. SPARC Enterprise M3000 の電源を OFF します。
- b. DigiCM48 の監視制御に使用するシリアルポートと、M3000のシリアルポートとを接続します。
- c. ノートPC Teratermアプリを起動し、DigiCM48の監視制御に使用するシリアルポート番号へ接続します。(telnet 接続で、ポート#: 7000+DigiCM48の監視制御に使用するシリアルポート#)
- d. M3000の電源を ON し、起動します。

7-2. PRIMERGY TX200 S6 との接続

- a. RHL5. 5 上で、シリアルコンソール操作が出来るように設定変更します。
- b. PRIMERGY TX200 S6 の電源を OFF します。
- c. DigiCM48 の監視制御に使用するシリアルポートと、TX200 S6 のシリアルポートとを接続します。
- d. ノートPC Teratermアプリを起動し、DigiCM48の監視制御に使用するシリアルポート番号へ接続します。(telnet 接続で、ポート#: 7000+DigiCM48の監視制御に使用するシリアルポート#)
- e. PRIMERGY TX200 S6 の電源を ON し、起動します。

8. 検証結果

8-1. SPARC Enterprise M3000 接続検証結果

Teratermアプリと、DigiCM48シリアルポート経由で、XSCFへのアクセス、SolarisOSへのコンソールアクセスが、出来る事を確認しました。

8-1. PRIMERGY TX200 S6 接続検証結果

Teratermアプリと、DigiCM48シリアルポート経由で、RHL5. 5 へのコンソールアクセスが、出来る事を確認しました。

お問合せ先
株式会社昌新
情報システム営業部 (担当: 浅利)
TEL: 03-3270-5926
E-mail: IS@shoshin.co.jp

以上